

< 様式 1 > 総合農業技術センター試験・研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：ヤマトイモの効率的種いも生産技術の確立（H25～27）

担当者名：萩原裕一、窪田 哲

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	ヤマトイモは高価な販売が期待できる作物であるが、通常の栽培法では初期投資が莫大であり、大幅な低コスト化・省力化が見込める技術の確立は、生産現場からのニーズが高い。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	小切片種いもを生産・利用する技術自体は他県で開発されているものであるが、この技術をヤマトイモを対象に高冷地に適応できる技術開発としての新規性を期待したい。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	耕作放棄地の解消とも合わせたヤマトイモの大規模な産地づくりに向けた取り組みが計画されており、本研究の目的・内容の整合性・妥当性は比較的高い。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	5 / 5	小切片種いもの生産技術、丸種いもを用いた栽培技術および丸種いもの貯蔵技術について、事前検証も実施されている。研究手法は的確であり、技術的可能性は高い。
5 成果の期待度	5 / 5	高冷地に適用可能な小切片種いもの生産技術とともに定植・収穫作業まで含めたシステムの構築によって、大幅な低コスト化・省力化が図られ、早期に普及されるよう期待したい。
総合評価	5 / 5	この技術が確立すれば、ヤマトイモ栽培の初期投資・腐敗リスクの低減、大幅な省力化が期待できる。加工工場も完成の予定とのことであり、大規模産地化・6次産業化によるブランド化を目指して進めて欲しい。

試験研究機関の処置

生産計画が進んでいる北杜市の大規模産地化を目指して、小切片種いもを用いた丸種いもの生産技術のシステム化、腐敗リスクの少ない貯蔵技術、種いも生産の大幅なコスト低減に向けた各技術を早期に確立していきたい。また、確立した技術は農業技術普及部と連携しながら毎年度ごとに明らかになった技術から随時、公表し、現地へ普及していきたい。

< 様式 1 > 総合農業技術センター試験・研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良（S47～）

小課題名：早だしスイートコーンの低温障害を軽減するための栽培管理技術
（H25～27）

担当者名：赤池一彦、長坂克彦

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	甲府盆地周辺の平坦部で広く作付けされている早出しスイートコーンの低温障害回避対策について生産現場からのニーズは極めて高い。リスク軽減、品質向上にも期待が大きい。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	低温障害回避のために分げつ枝の確保が重要であることが現地調査等で確認されているが、そのための技術は確立されておらず、新規性は比較的高いと考えられる。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	複合経営での主要品目である早出しスイートコーンの低温障害を軽減しうる栽培管理技術の確立は重要な課題であり、本研究の目的・内容の整合性・妥当性は比較的高い。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	分げつ枝を確保するためのトンネル管理技術として通気条件・採光条件、初期生育を確保するための施肥管理技術など、研究手法は的確であり、技術的可能性は比較的高い。
5 成果の期待度	5 / 5	分げつ枝発生のための通気条件・採光条件、初期生育促進のためのリン酸施肥等について、予備試験でも結果が得られており、成果の期待度は比較的高い。その際、リン酸施肥が食味に影響を及ぼさないか、確認する必要がある。
総合評価	4 / 5	複合経営での主要品目である早出しスイートコーンの低温障害を軽減し、安定的に栽培できる管理技術を確立することによって、産地強化が図れるよう期待したい。また、成果については、早期の情報公開を希望する。

試験研究機関の処置

分げつを促進するトンネル栽培管理技術を確立するとともに、リン酸施肥が生育だけでなく食味など品質面に影響するかについても検討していきたい。また成果については、年度毎に明らかとなった部分から随時公表し、現場へ早期に導入、普及できるよう努めたい。

< 様式 1 > 総合農業技術センター試験・研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：鳥獣害防止策の検証（H18～）

小課題名：既存技術の改善による獣害防止効果の向上

担当者名：本田 剛

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	山梨県では鳥獣による農業被害は深刻であり、防護柵を開発したり対策マニュアルを作成しているが、さらに効果を高める必要があり、生産現場からのニーズは高い。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	本県では、複数の獣種に対応する万能型の電気柵を開発・普及させているが、その機能をさらに向上させる技術を開発するもので、新規性、独創性は比較的高い。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	集落単位で進入防止柵が整備され、今後も整備が計画されていることから、これら技術の改善は重要であり、本研究の目的・内容の整合性・妥当性は比較的高い。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	道路からの動物進入を防止する技術、柵を設置するスペースを確保できないブドウ畑等で利用可能な柵の開発など、研究手法は的確であり、技術的可能性は比較的高い。
5 成果の期待度	4 / 5	本県では、複数の獣種に対応する「獣堀くんシリーズ」を開発・普及させている実績があり、また企業と共同研究を実施することから、成果の期待度は比較的高い。とくにコスト低減に期待が大きい。
総合評価	4 / 5	道路からの動物進入を防止する技術については、導入可能な低価格化を目指していただきたい。また、本県の主要農産物であるブドウにも設置可能な柵が開発されることによって、獣害防止の効果が向上するよう期待したい。

試験研究機関の処置

道路からの動物進入を防止する装置については、商品化した場合に低価格化を確実に達成できるよう、企業と連携して適切な構造設計などについて検討していきたい。また柵を設置するスペースを確保できないブドウ畑等での簡易柵については、現地実証を行いながら実用性を確認し、早期の成果の普及に努めたい。

< 様式 1 > 総合農業技術センター試験・研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：環境保全型農業の確立（H19～）

小課題名：果菜・葉菜類の有機栽培におけるマメ科緑肥の利用技術
（H25～27）

担当者名：赤池一彦、長坂克彦、國友義博、萩原裕一

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 （背景、社会的ニーズ）	5 / 5	有機栽培や減農薬・減化学肥料栽培を指向する傾向が高まるなか、とくに地力が低い農地ではマメ科緑肥作物の利用は意味があり、課題設定の必要性は高いと思われる。
2 課題の新規性、独創性	4 / 5	緑肥作物の特性については多くの知見が得られているが、有機栽培に組み込んだ実証試験、土着昆虫類の動向調査などについては、新規性について比較的高いと思われる。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	有機栽培におけるマメ科緑肥作物の利用効果については、研究目的・内容は妥当である。土着昆虫の動向調査については基礎研究的で整合性は高くないが、試験の過程で整合性・妥当性が得られるよう期待する。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	マメ科緑肥作物の利用効果を、主に養分供給・地力増進の観点から解明する手法は的確である。また、緑肥作物の利用圃場において土着昆虫の動向調査を実施するのは効率的であろう。
5 成果の期待度	4 / 5	マメ科緑肥作物による窒素地力増進効果についてはある程度の成果が予測できるが、土着天敵の動向については予測がつかない。次期研究課題につながるような成果を期待する。
総合評価	4 / 5	有機栽培や減農薬・減化学肥料栽培を指向する農家が多いなか、この研究の実施は意味がある。緑肥作物の利用効果及び堆肥や有機質肥料の施用法について具体的なデータを示し、使いやすい利用マニュアルを作成してほしい。

試験研究機関の処置

マメ科緑肥の養分供給機能を明らかにするだけでなく、土着昆虫類の発生と動向調査により今後の課題に結びつくよう基礎データを得ていきたい。また、生産者が実際に利用しやすいよう具体的なデータを入れた緑肥のマニュアル（指針）の作成を目指していきたい。

< 様式 1 > 総合農業技術センター試験・研究課題事前評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立(S 6 0 ~)

小課題名：ピラミッドアジサイの新品種育成(H 2 5 ~ 2 8)

担当者名：窪田浩一、加藤成二

評価項目	評価点	指摘事項
1 課題設定の必要性 (背景、社会的ニーズ)	5 / 5	洋ランの生産が低迷するなか、ピラミッドアジサイはそれを補完する品目として期待が大きい。他産地との差別化を図るためにはオリジナル品種を育成する必要があり、課題設定の必要性は高い。
2 課題の新規性、独創性	5 / 5	バリエーションの少ないピラミッドアジサイについて、有色・矮性・早生など県独自品種を育成する研究課題の新規性、独創性は高い。他県に先駆けた早期の研究成果を期待する。
3 目的・内容の整合性、妥当性	4 / 5	栽培期間の短縮で低コスト化を図り、有色・矮性など多様な品目の開発で産地間競争力を強化することは重要で、本研究の目的・内容の整合性・妥当性は比較的高い。
4 研究手法の的確性、技術的可能性	4 / 5	これまでに育成した有望系統の栽培特性の検討、重イオンビームによる新商材の作出という研究手法の的確性、技術的可能性は比較的高い。
5 成果の期待度	5 / 5	早期に開花する系統および早期に赤色を帯びる系統をすでに育成していることから、得られる成果の期待度は高い。市場ニーズに見合った新品種開発を期待する。
総合評価	5 / 5	これらピラミッドアジサイの新品種を育成し、栽培技術を確立し、県独自のブランド化を図るよう進めて欲しい。切花用アジサイの栽培技術の早期確立も期待する。また、出来るだけ早く登録して産地化することが重要である。

試験研究機関の処置

これまで育成した有望系統については、短期栽培法への適応性を検討すると同時に、慣行的な栽培法および切り花栽培の適応性も確認していきたい。また試験期間内に生産農家での現地適応性試験を実施し、市場性についても調査していきたい。さらには品種登録に向けた特性調査に加えて母株の増殖も平行して行いながら、登録後の早期の産地化を目指したい。

< 様式 5 > 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表（委員会用）

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立（S60～）

小課題名：夏秋どりイチゴの新品種育成と良品・安定生産（H17～24）

担当者名：加藤成二、

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	「かいサマー」と比較して収量性が優れ、1果重が重い夏秋イチゴの有望系統が選抜されており、研究目標の達成度は比較的高い。
2 成果の有用性 （普及性、波及性）	4 / 5	まだ品種の作出には至っていないが、有望系統が選抜されたことから、普及性、波及性は比較的期待できる。県内の高冷地での試験圃場の検証も踏まえモデル農家等での試験栽培による検証が必要である。
3 研究の発展性	4 / 5	今後もさらに研究期間を延長し、より優れた特性の品種を作出するとともに、安定生産技術も確立してほしい。また、夏秋イチゴは、業務用と観光用に限られるため一定の品質・収量確保の目処を立てるのが重要である。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	イチゴの国内生産量が落ち込む夏秋期に収穫でき、さらに果実の大きさや硬さなど実需者ニーズに合う品種を育成するという研究課題の選定は妥当である。
総合評価	4 / 5	「かいサマー」よりも収量性が優れ、1果重が重い有望系統が選抜されたことは評価できる。これを基に、優れた特性を持つ品種を作出し、山梨ブランドとして確立してほしい。需要は高いので、普及を念頭に置き、栽培から販売まで含めた総合的な検討が必要である。

試験研究機関の処置

有望系統については、引き続きセンター内の試験圃場での検証を行うとともに生産農家での現地試験を実施し、実用性について十分な調査を行ってきたい。また品質・収量の確保についても一定の目処がたてられるよう十分な検討を行っていききたい。系統の評価に当たっては普及、行政、生産者団体と連携しつつ栽培から販売まで含めた総合的な検討を行っていききたい。